

5/13

九州最大級の  
太陽光発電所が完成

寿

古町の太村火力発電所跡地に建設されていた、「大村メガソーラー発電所」が完成し、竣工式が行われました。

キユーデン・エコソルの主催で行われた竣工式には、松本市長をはじめ、県や工事関係者など約40人が出席。完成を祝うとともに、これからの安全稼働を祈願しました。

同発電所の発電規模は、13.5メガワットで、九州でも最大級。敷地には、太陽光パネルを敷き詰めた2か所の発電所が建設され、1日で一般家庭3,800世帯分の電力を賄います。

大村メガソーラー発電所竣工式



5/31

梅雨時期に備えて  
連携を強化

梅

雨の時期に合わせ、市長をはじめ、県央振興局や警察署、消防署、消防団などの防災関係機関が、市内の危険箇所を視察しました。

今回は、鈴田地区の災害復旧箇所や土砂災害警戒区域、福重地区のJR線下のアンダーパスやよし川の河川改修工事の4か所の状況を確認しました。

現場では、県や市の担当職員が、現在の状況と災害時に想定される状況を報告。参加した関係機関は、大雨などの災害に備え、相互の連携を強化することを再確認しました。

災害危険箇所状況視察



6/1

市長が大村少年合唱団  
を訪問

市

長が、さまざまな分野でがんばる市民の活動現場に向かい、対話を行うことで、その現状や課題を共有し、今後の市政に反映させることを目的に、「どこでん市長室」を開催しています。

第1回目は、「大村少年合唱団」の練習会場を市長が訪ねました。

子どもたちの美しい歌声で迎えられた後、育成会の皆さんと楽しく意見交換を行いました。育成会からは、「発表の場を設けてほしい」「他の団体とコラボできないか」など、率直なご意見が多数寄せられました。

どこでん市長室「大村少年合唱団」



「アジアにおける  
大村」

市長コラム vol.23

5月の中旬、韓国の消防防災庁長から招いを受けて、「消防防災万国博覧会」に出席するため韓国の大邱市を訪問しました。私は二十数か国を訪問していますが、お隣の韓国に渡航したのは今回が初めてです。

この消防防災展は、2003年に大邱市で起きた大規模な地下鉄火災を契機に、都市の消防防災の発展のために毎年開催されており、今年で10回目となります。開幕式では、韓国の国会議員をはじめ、大邱市長にもお会いできました。

特に今回は、大村市の企業「ナカムラ消防化学」が、世界で初めて開発された「軽自動車による小型化学消防ポンプ車」を出展され、参加者から大きな関心を集めておられました。このように、大村で開発された優秀な技術や製品を、海外に普及させる重要なモデルケースになったのではないかと思います。

大邱市は人口約270万人で、韓国第4の都市です。一般的に韓国は英語力の高さが伝えられていますが、街中の看板にはハングル文字が目立っていました。大邱も釜山も高層マンションが建ち並び、全体的に活気とエネルギーに満ち溢れていました。アンジョンハセヨ(こんにちは)とカムサミダ(ありがとう)だけを連発する中で、韓国の方々が日本人に対して好感を持たれているのを感じました。

さて、近年東南アジアを中心に、日本の優れた技術を学ぶために、日本への留学を希望する学生が多いそうです。日本が欧米に比べて近いということも大きな理由と考えられますが、日本の技術や資格を取得するためには、まず、日本語や生活習慣を身に付けることが重要になります。

このため、私は現在、「大村国際語学センター構想」の調査研究を進めています。東南アジアに近い大村でこの構想が実現すれば、「日本の大村市」から、「アジアにおける大村市」に発展する日はそう遠くない事でしょう。